

北広島市立学校適正配置等審議会 会議録

日 時	令和4年6月9日(木) 18時00分 ~ 20時00分
会 場	市役所 3階 会議室3D
出席委員	岡田一之委員、菅野清徳委員、立花秀俊委員、辻村匠委員、常田拓孝委員、 中村寛成委員、西崎毅委員、西村暁子委員、ハンラティー梓委員、前田優委員、 松本広徳委員、村山明子委員、若林公一委員
欠席委員	岩本麻実委員
市出席者	【教育委員会】吉田教育長、吉田教育部長、後藤教育部理事、 花田学校教育課長、 (庶務)下野教育総務課長、相木主査、田中主任 【オブザーバー】川村企画財政部長、佐藤企画課長
傍聴者	4名

1 開会

会長及び副会長選出までの間、教育総務課長が進行。開会宣言。

2 委嘱状の交付

教育長から委員に対し委嘱状を交付。

3 挨拶 北広島市教育委員会教育長 吉田孝志

教育長から挨拶。

4 審議会委員及び事務局紹介

教育総務課長から、資料1に基づき委員及び市出席者を紹介。

5 会長及び副会長の選出

会長に常田委員を、副会長に西崎委員を選出。以降は、会長により進行。

6 北広島市立学校適正配置等審議会及び運営について

教育総務課長から、資料2及び3に基づき審議会及び審議会の運営について説明。

7 会議録署名委員の指名について

会議録署名委員として岡田委員を指名。

8 報告

(1) 適正規模・適正配置検討事業の取組について(令和4年4月~5月)

教育総務課長から、資料4に基づき令和4年4月から5月の取組を説明。

9 諮問

教育長から、会長に対し諮問書(資料5)を手交。

教育総務課長から、資料6に基づき諮問趣旨等を説明。

10 審議

冒頭、企画財政部長から、資料8に基づき市のまちづくりについて説明。

調査審議事項1、本市の特性を踏まえた市立学校の配置について、審議。

【A委員】

○国が示している通学距離、通学時間の目安を機械的に適用するのではなく、保護者等の意

北広島市立学校適正配置等審議会 会議録

見を踏まえながら審議していく必要がある。今後開催予定の保護者説明会では丁寧な説明とともに、保護者の意見を受け止め、審議会にフィードバックしてもらいたい。

【B委員】

- 北広島市は、野幌原始林を含む野幌丘陵を中心に地区が分かれているため、それぞれの地区住民間の交流が少ない。このような現状も踏まえて、考えていく必要がある。市民の意見を丁寧に聞く必要がある。
- 高台小・緑陽小、広葉小・若葉小が平成24年に統合した際の説明会では、統合ありきの説明会であり、また、統合の効果は10年間継続できると言っていたにもかかわらず、統合から数年後には1学年1クラスとなり、今に至っている。私の子どもも7年間同じクラスで過ごしていることから、統合は失敗ではないかと思っている。統合は失敗であったことも含めてきちんと説明する必要がある。また、もっと将来を見据えて考えていかなければいけないと思う。
- コミュニティ・スクールに参加しているボランティアは、自分の子どもや孫が地域の学校にお世話になったから参加している人も多いと思うので、彼らの思いも大事にしてもらいたい。
- 地区間における教育格差、世代間の格差があってはならない。複数クラスによる切磋琢磨は良いことではあるが、安易に再編ありきで考えるべきではない。

【C委員】

- 子どもを育てるため、より良い環境を探し、札幌から移住してきた。子どもが小学校に入学した際は2クラスであり、小規模でありながらも良い環境であった。最近、地域による見守りであったり、保護者も教育に関われるような地域になっていると感じている。今後も、この地域で子どもを育てたいと思えるような地域、学校づくりをしていてもらいたい。
- 子どもにとって何が良いかを念頭に置いて審議していく必要がある。私自身とても良い環境で子育てができたと思うので、学校の形態が変わっても、子どもも保護者も良かったと思えるような地域、学校づくりにつなげてほしい。

【D委員】

- 学校の施設について維持管理費がかかるため、財政的な理由から統合したいのか、それとも学級数が減ることで教育の質を保てないからなのか、確認したい。
- 小規模な学校であっても、例えば市立学校間で共通のテストを実施して、切磋琢磨できる環境をつくるなども可能なのではないか。

【事務局（教育総務課長）】

- 教育の質の観点から議論いただきたい。学級数が少ないと切磋琢磨できる環境が保てないのではないかとこのところからスタートしている。市としての基準を満たさない学校が出てくるので、それらの学校を今後どうするか、という観点になる。
- なお、国の手引きでは、適正な規模を下回る学校の教育の質を確保する方策として、通学区域の見直し、統合、義務教育学校化、小規模校への遠隔教育の導入や山村留学、離島留学などの学校選択制などの方法が示されている。市の現状を踏まえた上で、こういった選択肢がよいのかを議論していくこととなる。

【B委員】

- 教育の質について、既に希望する部活動がないという理由で隣の学校に通っている子どももおり、質が確保できなくなっている。このような地域間の格差をなくさないといけない。
- 北広島駅西口の再開発の影響は限定され、広葉中学校区の人口が増える一方で、緑陽中学校区などは過疎化が進むのではないか。

【事務局（企画財政部長）】

- 団地地区の住み替えがうまくいかなかったのは、市としても課題であったと認識している。団地地区は広い土地を所有している人が多いが、最近では土地を購入するにあたり、あまり広い土地を求めていない人も多い。時代の変遷とともに、今後どのようにまちづくりを進めていくのが課題である。委員の指摘のとおり、一つの視点ではなく、未来を見据えた大きな視点で進めていくことが大事であると考えている。

【E委員】

- 周囲の保護者をみると、地元出身の保護者が多く、自分が育ってきた地域に戻ってきたいという気持ちを持った方が多いと感じている。
- 自分の子どもと話したところ、1学年1クラスでも良い面はあるが、子どもにとってはクラス替えのわくわく感があるとのことであり、学校の規模にかかわらず、クラス替えがあった方が良いという意見であった。

【F委員】

- 以前赴任した学校では、統廃合により2校となったが、スクールバスで1時間かけて登校していた。目安とされている6キロ以上の距離であり、子どもたちの負担が大きいと感じていたが、複数学級を維持するための方策だったのだと思う。また、別の学校では、24学級あり、子どもたちはたくさんいたが、逆に教室が足りなく、教育活動が困難となることもあった。
- 学校を中心とした地域づくりについて、地域に学校を残していくのは大事ではあるが難しい話でもある。北広島市は地区が分散しているので、その中でどうやって地域を発展させて、学校、子どもたちの声を残していくのかというのは非常に難しい話であると感じている。

【G委員】

- 子どもが通っている学校では、児童数は少ないが、学年を超えて仲良くしている。ただ、これから周辺地域が開発されていくなかで、子どもの数が増えるのか、減るのか、見当がつかない。
- 夫の通勤圏内にあり、自然が身近に感じられる良い環境を探して、北広島市に引っ越してきた。ただ、妊娠中に引っ越してきたが、市内に産婦人科がなく、困ったこともあった。
- 家を建てる土地が見つからないという話も聞くので、若い世代が入りにくい印象がある。ボールパークもできるので、もっと若い世代が移住しやすい環境であればよいと思う。

【H委員】

- ボールパークや隣接するマンションなどができていく様子を見ると、今後小学校に入学する子どもが増えるのかと思う一方、地価が上がるなどマイナスの面もあるので、人口の増減が見えづらい。地域に根差している学校が統廃合をするということは大変なことであると思っている。

【I委員】

- いろいろな環境のなかで、慎重な議論が必要であると思っている。保護者に加えて地域の方々にも説明する機会を設けて意見を聞く必要がある。
- 子どもが学校に通っている様子を見ると、クラスが少なくとも小規模ならでは、学年の垣根をこえた人間関係を構築し、うまくやっている。
- 地域に学校を残したいし、なくなったら寂しいと感じる。今の校舎で、オンラインなどを活用して教育活動を進めるなど、いろいろな方法を模索すべき。近隣の学校で集まって授業を行うなど、これまでの概念を覆すような考えが必要ではないか。

【J委員】

- 都市部ではない地域では、少子化の進行が早く、それに伴い学校も統合していくのをこれまで見てきた。高校では、核となる地域連携校が周辺の小規模校に教員を派遣するなど、教育の質の確保に取り組んでいる。
- 1学年1学級の学校を訪問すると、子どもの声が聞こえず、ひっそりとしていて活気がない。部活動でも3人程度で野球の練習をしていたり、合同チームで試合したりしていた。クラスが少ないと、きめ細やかな指導はできるが、教育の質の面ではやはり心配である。
- 市の基本方針にある、クラス替えによる新たな人間関係を構築する力や多様な意見・価値観に触れることで豊かな人間性を育むこと、クラス同士が切磋琢磨する教育活動、クラスの枠をこえた集団活動ができるようになるなど、子どもたちにとって質の高い教育の観点から議論していくべき。
- 子どもたちが、ある程度の規模のなかで相互に関わりあっていくのがよいかと思う。
- 一人一台端末などICT環境が整備されたことで、小規模校の特性である学習の個別化については、小規模校以外でも対応できるのではないか。

【K委員】

- 北広島市の前回の統合を経験したが、最後の年の1年生は9名であり、統合は前向きに捉えられた。適正な規模というのは必要である。
- 前回の統合時に、地域の学校を愛する気持ちは大きいと感じた。このことから、早い時期から、より丁寧に、何のために学校を適正に配置しなければいけないのかなど説明していく必要があると思う。
- 現在の勤務校も校区が東西に長く、現在スクールバスを活用しているが、原油高でバス会社も苦勞していると聞く。スクールバスの導入も、将来的には難しくなることもあるかと思う。

【L委員】

- 保護者、地域の皆さんの意見を聞き、汲み取りながら進めることが重要。
- かつての勤務校では、子どもの人数が少なく、バスケットボールの授業は隣の学校と合同で行ったり、ドッジボールは経験できなかつたりしていた。子どもの人数が減少するところうしたことが起こる。
- 現在の学校規模では、そこまで支障はないように思う。ただ、子どもたち自身が、規模の大きい学校を知らないのでは、比べることができれば、クラス替えはやはりできた方がいい、各地区に学校があったほうがいいなど、様々な意見がでてくると思う。

【会長】

- 皆様のご意見のとおり、地区の現状を踏まえて考えていく必要がある。今後も委員の忌憚ない意見をいただきたい。

11 その他

(1) 次回審議会の開催について

事務局から、後日日程調整したい旨説明。

12 閉会

令和4年6月27日

会議録署名委員

岡田 一之